

葛飾区のア天文博物館ご紹介

2016-1-11

東京在住 福原浩一

年が明け東京暮らしもそろそろ慣れて来ましたが、正月休みを実家で過ごす京都でも星空の星座が楽しんで、あらためて星が見える喜びを発見しました。月例にはなかなか参加できませんが、今年もよろしくお願ひします。

残念ながら夜の星空を楽しめない分、夜景が楽しめます。自宅の窓から見えるスカイツリーでは時々に変化するカラフルなイルミネーションが楽しめます。昨年末にスターウォーズが封切られた際は、青や赤の縦一直線の明かりがライトセーバーのように点されて、公開に花を添えていました。



星空との縁が薄いため、楽しみはもっぱら散策です。

近くの観光地巡りから始め、できるだけ都内一円をうろうろするつもりですが、先日「こちら葛飾区亀有公園前派出所」でお馴染みの「亀有」をブラブラしたところ、両津勘吉の像などを一通り見終えたら、葛飾区のア天文博物館が目についたので寄ってみました。簡単にご紹介します。

(正式な案内は、ホームページをググってください)

正面から見ると大きなプラネタリウムのドームが印象的です。玄関を入ると1階は郷土資料展示があり、葛飾区や東京が江戸時代から近代にかけて発展してきた様子が分かります。特に印象的だったのは、終戦間際にこの辺りが焼け野原となった東京大空襲の展示でした。



天文関係は2階で、階段の吹き抜けには”フーコーの振り子”が展示され、地球の自転を観測できました。振り子の重りの先に針が出ていて、振動面が回転して行くと床に円周上に立っている針が倒れる仕組みで、この日の朝からの自転角が倒れた針で観測できました。



ここのメインはプラネタリウムですが、2階の展示には”ティコ・ブラーエのアーミラリー”があります。ここを訪れるまでこの言葉を知りませんでした、本来は天球儀との意味らしい。ティコは大型化してこれを星の位置の測定に使ったそうです。



使い方の説明を見ると、下から円盤の中央に目的の星を入れて赤経位置を目盛で測り、北極星に合わせた軸と星の見える円周上の位置目盛で赤緯を測ったとありました。設置場所がスウェーデンで、真冬の観測ともなれば極寒になるため、ティコはかなり努力したのではないかと思います。そうした先人の苦勞がうかがえる展示でした。

周辺には隕石の本物が多数展示されていました。切断面がまだらに光っている隕鉄や石質隕石など、世界各国からの標本を良く集めた展示でした。

他に当日の太陽望遠鏡の画像が観られたり、天文の展示が充実しています。

ここは大変立派な博物館ですが、葛飾区に設けられた背景は、なぞでした。

これからも東京近郊を探訪して、星にまつわる情報があれば発信します。お楽しみに。

